

コロナ禍の神学教育とその課題¹

岡村直樹

I. 新型コロナウイルスの感染拡大と大学教育への影響

2019年の年末から感染の拡大が始まった新型コロナウイルス（COVID-19）は、2020年3月11日、世界保健機構（WHO）のテドロス事務局長によって正式にパンデミックとして認定された²。2021年9月28日現在で、世界で約2億3207万人の累計感染者と約475万人の死者を数えている³。日本においても、2020年9月5日現在、約170万人の感染者と1万7511人の死者が出ている⁴。2020年4月7日、安倍総理（当時）は、改正新型インフルエンザ等対策特別措置法第32条第1項の規定に基づき、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、及び福岡県の7都府県に対して緊急事態宣言（第1回）を発

¹ 本研究におけるデータ分析は、東京基督教大学の徐有珍准教授、またデータ収集は、東京基督教大学の高橋信希職員、立山剛職員、朝岡識職員の協力を得て実施された。なお本稿においては、新型コロナウイルス感染の期間を「コロナ禍」また感染以前の期間を「コロナ前」と表現する。

² パンデミックとは、感染症や伝染病が世界的に大流行する状態を指す。現代では航空機など交通機関が発達しているため、一度感染症が発生すると瞬く間に世界中に広がり、多くの感染者が同時期に散発的に発生する可能性がある。歴史的には、14世紀にヨーロッパで流行した黒死病（ペスト）、19～20世紀にかけて地域を変えながら7回の大流行を起こしたコレラ、1918～1919年にかけて全世界で2,500万人が死亡したといわれるスペインかぜ（インフルエンザ）がこれにあたる。（公益社団法人日本薬学会「用語解説」<https://www.pharm.or.jp/dictionary>：2021/9/6 確認）

³ WHO 発表（<https://covid19.who.int/>：2021/9/28 確認）

⁴ WHO 発表（<https://covid19.who.int/region/wpro/country/jp>：2020/9/28 確認）

出した⁵。この緊急事態宣言により、公共交通機関など必要な経済サービスは可能な限り維持しながら、密閉、密集、密接の3つの密を防ぐという感染拡大防止対策がとられることとなった。しかし2020年5月25日の緊急事態宣言解除宣言の後も感染の拡大は収束せず、その後さらに4回の感染急拡大の時期と3回の緊急事態宣言の発出を経て現在（2021年9月29日）に至っている。

新型コロナウイルスの大規模感染はその発現以来、日本社会の様々な営みに多大な影響を与え続けており、神学大学における教育も例外ではない。文部科学省（以下文科省）は、感染の拡大が世界規模で始まった2020年1月より、管轄する大学、大学院、高専（高等専門学校）に対して繰り返し注意喚起を行いつつ、3つの密を防ぐという観点から、対面式の卒業式の実施方法の変更や延期を要請し、多くの大学、大学院、高専はその要請に応え、必要な対応を実施した⁶。また2020年3月24日、文科省は、「令和2年度における大学等の授業の開始等について」という文書の中で、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、新学期の開始時期の延期と、対面授業の代わりに遠隔授業の実施を促す通知を行った⁷。この通知を受け、2020年5月13日時点で、日本の国立大

⁵ 首相官邸ホームページ（https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/actions/202004/07corona.html：2021/9/28 確認）

⁶ 文部科学省『学校の卒業式・入学式等の開催に関する考え方について』（事務連絡：令和2年2月25日）より、以下原文「感染が発生している地域におきましては、学校の設置者において、実施方法の変更や延期などを含め、対応を検討していただくようお願いします。」（https://www.mext.go.jp/content/20200225-mxt_kouhou02-000004520_02.pdf：2021/9/28 確認）

⁷ 文部科学省『令和2年度における大学等の授業の開始等について』（通知：元文科高第1259号、令和2年3月24日）より、以下原文「入学式等の年度初頭の行事の実施に際しては、地域の実態を踏まえ、上記の3つの条件が重なることのないよう、それぞれの学校行事の態様の特徴に応じて、感染拡大防止の措置や開催方式の工夫等の措置を講じたり、延期したりする等の対応を適切に行うこと。なお、地域における感染症の発生状況や学生の状況等を踏まえ、当初の予定通りに授業等を開始することが困難である場合には、設置者の判断で授業等の開始時期の延期等を行うことを妨げるものではないが、その検討を行う場合は、多様なメディアを高度に利用して行う授業（以下「遠隔授業」という。）の活用などによる学修機会の確保に留意すること。」（https://www.mext.go.jp/content/20200324-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf：2021/9/28 確認）

学の90.7%、公立大学の82.9%、私立大学の87%、高専の87.7%が、授業開始時期を延期した。さらにすべての国公立大学と高専が、また98.5%の私立大学が、遠隔授業の実施、または検討を行った⁸。緊急事態宣言（第1回）解除後以降は、対面授業を再開する大学院、高専が増え、文科省による「（2020年）7月1日時点における授業の実施方法について」という調査報告では、全体で、対面授業のみ実施の学校が16.2%、遠隔授業のみ実施の学校が23.8%、双方を併用する学校が60.1%となった⁹。

本稿の執筆者が所属する東京基督教大学（千葉県印西市に位置する神学部のみ単科大学、以降TCUと記述）では、学部と大学院、および専攻科において、新型コロナウイルス感染予防の一環として、2020年3月以降以下のような取り組みが実施されている。

2020年度の対応

- ・3月6日の春期卒業式における時間の短縮と参加人数の制限を実施した。
- ・春学期の開始を遅らせ、5月4日を授業開始日、7月10日を授業終了日とした¹⁰。
- ・春学期の対面授業を見送り、全面オンライン授業（遠隔授業）とした。
- ・春学期中は一部留学生の滞在を除き、独身寮の閉鎖を決定した。
- ・夏期卒業式の予定を7月10日から7月29日に変更し、卒業生と一部教職員以外は原則オンラインによる参加とした。
- ・秋学期の授業開始日を8月31日とし、オンライン授業と対面授業の双方（ハイブリッド授業）を実施することとした。
- ・秋学期の独身寮の限定的再開を決め、一部学生が寮に戻った。
- ・自宅からのオンライン受講は継続された。

⁸ 文部科学省による調査報告『新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について』（令和2年5月13日、https://www.mext.go.jp/content/202000513-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf：2021/9/28 確認）

⁹ 文部科学省による調査報告『新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況』（令和2年7月17日、https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf：2021/9/28 確認）

¹⁰ 東京基督教大学では、年間3学期制（各学期10週間）をとっている。

2021年度の対応

・2020年度の秋学期から継続してハイブリッド授業を提供し、原則寮生は対面にて、自宅生はオンラインにて授業を履修することとなった。

・千葉県によって8月2日からの実施が決まった緊急事態宣言を受け、秋学期の対面授業を見送り、全面オンライン授業とした。

・寮は特別な理由がある者のみの滞在が許可され、約8割の寮生は自宅等からの受講となった。

コロナ禍におけるハイブリッド授業の割合は、2020年秋学期の約2割から段階的に増加し、2021年春学期には、約6割に達したが、千葉県が発出した緊急事態宣言を受け、2021年の秋学期は全面オンラインへと戻っている。主な理由は、TCUの全校生徒の9割以上がキャンパス内に住む寮生であり、寮内においてクラスターを発生させない為である。

オンライン授業には、教科書やその他の資料を読んで課題を提出する授業のタイプに加え、主に教員が作成した講義内容の動画を視聴する授業タイプ、そしてオンライン会議システム（Zoom等）を使用した相互コミュニケーションのある授業タイプの3つが存在する。講義内容の動画を視聴して受講するタイプの授業は、学生が自分の都合に合わせて受講できることからオンデマンド授業とも呼ばれる。2020年度の春学期以降、TCUではひとつのオンデマンド授業を除き、すべてのオンライン授業、及びハイブリッド授業がZoomを用いた相互コミュニケーションのある授業として実施されている¹¹。

II. 混合研究の実施とその目的

対面授業からオンライン授業への移行は、多くの大学生の中で精神的ストレスを生じさせていると考えられている。例えば東京大学相談支援研究開発センターでは、「学業や将来に関すること等への不安や恐怖」「家で過ごす時間が長くなるに伴う孤独感、倦怠感」「主体性や自由が失われること、過度の我

¹¹ Zoomを用いた授業の一部に、動画視聴のようなオンデマンドの要素を一部併用する授業も存在する。

慢を強いられることに対する怒り」「従来のサポートやケアが得られなくなることによる精神的苦痛」といった具体例を挙げ、注意喚起を行っている¹²。このような情報を念頭に、オンライン授業を受講し、オンラインの学生生活を送る学生の生の声を聞くため、春学期中の2020年の6月中旬から7月中旬の約1ヶ月にわたって、無記名アンケート調査が実施された。また併せてインタビュー調査が、2020年7月、および2021年3月にオンラインで実施された。本研究の目的は、これらの調査から得られたデータを分析し、学生の信仰の成長や霊的形成に着目しつつ、それをオンラインによる神学教育の改善や学生のケアに結びつけることである。

実施された無記名アンケート調査からは数値化された量的データが、またインタビュー調査からは言語化された質的データが収集された。量的データと質的データの双方を用いる研究の方法は、混合研究とも呼ばれている。混合研究とは、複雑な現象をマクロレベルとミクロレベルの両方で調査し、個人の文脈に埋め込まれた、深くて多様な視点や経験を捉えつつ、現象の全体像にも目を向ける研究方法である¹³。例えば量的データと質的データの収集と分析を併用する混合研究法の強みは、「数値による傾向とその詳細を取り扱うことにより、問題の深い理解がえられること」や「ある現象に関して現場での意味を維持しながら客観化を行うことができること」などであると言われている¹⁴。そのような特徴を持つ混合研究は、コロナ禍で苦闘する学生の声を聞く上で相応しいひとつの研究方向であると判断された。本研究では、無記名アンケート調査、グループインタビュー調査、そして個人インタビュー調査がオンラインで実施された。アンケート調査を無記名としたのは、量的に、より多くの学生から率直な意見や感想を聞くためであった。次章以降に詳しい説明を記述するが、ア

¹² 「学生の皆さまへ～新型コロナウイルス感染症に関連する対応について～」東京大学相談支援研究開発センター（https://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/scc/wp-content/uploads/2020/04/COVID-19_student_20200402.pdf：2021/9/28 確認）

¹³ 日本混合研究法学会ホームページ（<http://www.jsmmr.org/home>：2021/9/28 確認）

¹⁴ 樋口倫代「現場からの発信手段としての混合研究法：量的アプローチと質的アプローチの併用」『Journal of International Health』26 巻2号（日本国際保険医療学会、2011年）107-117頁

ンケート調査の番号選択問題 (5 択回答式、複数回答式) が量的データの収集に、アンケート調査の自由筆記問題、およびインタビューが質的データの収集にそれぞれ該当する。

調査の中では、学生の「相談相手の有無」や「精神的な状態」に加え、学生の「信仰の状態」や「信仰の成長」、また「霊的形成」に関する質問がなされた。キリスト教における「信仰」とは「神を信頼する」ことを指す¹⁵。「信仰」と同様に「霊」も目に見えないものであり、それは神が人間に与えるものであると聖書には記述されている¹⁶。したがって「信仰の状態」とは、神への信頼の度合い、「信仰の成長」とは、神への信頼が増し加わること、さらに「霊的形成」とは目に見えない「信仰」が、形作られていくことをそれぞれ指すと捉えることが出来る。TCU は入学生に対してクリスチャンコード (キリスト教の洗礼を受けた者のみに入学を許可する選考基準) を持つ神学大学でもあり、これらは TCU のキャンパスにおける学生の会話からも頻繁に耳にする言葉である。「信仰」、そしてその「成長」や「形成」は、クリスチャンのセルフ・アイデンティティーと深く関わっており、自らを信者 (クリスチャン) と認識する者にとっては、特に重要なボキャブラリーでもある。さらに TCU のような「信者」を対象に教育を行うキリスト教大学が、学生の心のケアを考える上で避けて通ることのできない大切な視点でもあると言えるだろう。

III. 量的調査とその結果

① 量的調査 (アンケート調査) の概要

無記名のオンラインアンケート調査は、2020 年 6 月の時点での TCU の全学生 170 人 (休学中の学生を除く) に対して実施された。回答は 124 人から寄せられ、有効回答の割合は 72.94% となった。124 人の中には、英訳されたアンケートに回答した 12 人の英語話者が含まれていたが、その中には海外住居者も含まれていたため、本稿ではそれら 12 人から得られたアンケートの回答を除く、

¹⁵ 「信仰」『新聖書辞典』(いのちのことば社、2014 年) 724 頁

¹⁶ 「霊」『新聖書辞典』(いのちのことば社、2014 年) 1546 頁

112 人の日本在住の日本語話者からの回答のみをデータとして用いることとした¹⁷。その場合、英語話者に送られたアンケートの総数の 21 を差し引いた 149 が母数となり、有効回答の割合は 75.17% となった。内訳は、学部 1 年生 24 人、2 年生 20 人、3 年生 21 人、4 年生 24 人、大学院 1 年生 14 人、2 年生 7 人、専攻科生 2 人であった。

アンケートの質問は、上記の調査目的に沿って、TCU の教務課を中心に、複数の教員と職員の相談を経て決められた。そこには、①オンライン授業の環境に関する質問 (13 問)、②オンライン授業の内容や方法に関する質問 (23 問)、③信仰生活に関する質問 (9 問)、④寮や通学に関する質問 (19 問)、という 4 つのカテゴリーが設けられた。アンケート調査の質問数は 64 問と、その量が多く、また内容も多岐にわたっており、限られた本稿紙面において全てを取り扱うことは困難であることから、本研究の量的調査の部分では、研究の目的を踏まえた上で、③「信仰生活に関する質問」という項目の中で取り扱われた質問に対する回答を研究データとして中心的に用いることとした。回答の方式には、「とてもそう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」といった 5 択回答式に加え、該当する項目すべてにチェックを入れる複数回答式、そして自由記述回答式の 3 種類が用いられた。本章ではアンケート調査の量的データ (5 択回答と複数回答) のみを扱い、次章以降で質的データ (自由記述回答) を扱う。以下に、無記名アンケートの質問と回答の割合を記す。

信仰生活に関する質問

1a) あなたの現在の「心の健康状態 (精神的な健康)」は、良好ですか。
回答 (とても良好 20.5%、まあまあ良好 44.6%、どちらとも言えない 8.9%、あまり良好ではない 22.3%、まったく良好ではない 3.7%)
1b) 上の質問で「あまり良好ではない」「まったく良好ではない」と答えて下さった方に質問します。その理由は、新型コロナウイルスの蔓延と「直接的、または間接的」に関係していると思いますか。

¹⁷ 海外居住者の場合、社会環境や生活環境等が日本居住者と大きく異なることが想定されるため、本研究では対象から除外することとした。

回答（とてもそう思う 46.7%、ややそう思う 30%、どちらとも言えない 10%、あまりそう思わない 6.6%、まったくそう思わない 6.7%）

2a) あなたの現在の「信仰の状態」は、良好ですか。

回答（とてもそう感じている 20.5%、ややそう感じている 43.7%、どちらとも言えない 17.9%、あまりそう感じていない 10.7%、まったくそう感じていない 7.1%）

2b) 上の質問で「あまりそう感じていない」「まったくそう感じていない」と答えて下さった方に質問します。その理由は、「新型コロナウイルスの蔓延」と直接的、または間接的に関係していると思いますか。

回答（とてもそう思う 30.8%、ややそう思う 22.7%、どちらとも言えない 13.6%、あまりそう思わない 9.1%、まったくそう思わない 22.7%）

3) 春学期中のこれまでのあなたの「礼拝出席の形態」を教えてください。（複数回答可）「その他」を選択したら、具体的に礼拝出席の形態を入力してください。

回答（教会に集まる通常の礼拝 55.4%、オンライン同時型礼拝（Zoom、YouTube ライブ配信等） 65.2%、オンライン・オンデマンド礼拝（YouTube 録画等） 24.1%、その他はすべて 1% 以下）

4) 春学期中（オンライン授業期間中）に、あなたの信仰の成長や霊的形成に「ポジティブな影響」を与えているのは何だと思いますか。（複数回答可）

回答（個人のデボーション 54.5%¹⁸、教会生活 50.9%、オンライン授業の内容 50%、小グループチャペル 40.2%¹⁹、チャペル・メッセージ動画 33%、デボーションガイド 13.4%²⁰、TCU のオンライン祈禱会 28.6%²¹、TCU 生とのオンラインでの交わり 52.7%、TCYouTube 14.3%²²、わからない 4.5%、その他はすべて 1.8% 以下）

5a) あなたには、「ネット環境以外」の生活全般（人間関係や教会生活等を含む）

¹⁸ 個人で聖書を読んだり祈ったりすること

¹⁹ 担任教員と学生（5～10 名ほど）が週に 1 回、約 30 分オンライン上で集まって持たれる集まり

²⁰ 学生の個人デボーションをサポートするために大学が作成しているガイド

²¹ 学生が大学を介さず、自主的に集まって開いている祈りの会

²² 大学の職員と有志の学生が作成している 30 分ほどの YouTube 番組

について悩みがあるとき、相談できる人はいますか。

回答（いる 80.4%、いないが欲しい 9.8%、いないし、欲しいと思わない 3.5%、どちらともいえない 6.3%）

5b) 「相談相手がいる」と答えた方に伺います。相談相手は誰ですか。（複数回答可）

回答（TCU 教員 15.7%、TCU 職員 6.7%、牧師 33.7%、教会の人（牧師以外） 28.1%、親 55.1%、兄弟姉妹（実の兄弟や姉妹） 28.1%、TCU の友人 66.3%、TCU 以外の友人 53.9%、家族 5.6%、その他はすべて 1.1% 以下）

6) 新入生以外の学生さん（学部から大学院へ進んだ学生さんも含みます）に質問します。「2020 年の春学期以前の TCU 生活」を振り返って、あなたの信仰の成長や霊的形成に大きな影響を与えたものは何だと思いますか。（複数回答可）「その他」を選択したら、具体的に影響を与えたものを入力してください。

回答（個人のデボーション 45.5%、教会生活 67.5%、TCU でのチャペル 51.9%²³、寮での生活 59.7%、授業の内容 57.1%、教員との交わり（授業内・外での） 44.2%、職員との交わり 28.6%、TCU 生同士の交わり 74%、TCU での祈禱会 45.5%、TCU での委員会やサークル活動 41.6%、スプリングリトリート 53.2%²⁴、シオン祭 31.2%、夏期伝道 50.6%、家族 2.6%、その他はすべて 1.3% 以下）

② 量的調査（アンケート調査）の結果と分析

上記の「信仰生活に関する質問」に対する回答を振り返りつつ、主にクロス・リファレンスを用いた量的データの分析から浮かび上がってきた、特筆すべき事柄を、5 つの項目に分けて以下に紹介する。

(a) TCU 生の精神的健康状態と信仰の状態の良好さの間には、明らかな「正の相関関係」が見られる²⁵。

²³ 火曜日から金曜日まで行われる、毎日 30 分のチャペル

²⁴ 1 年に 1 回、2 泊 3 日で実施されている全校生徒を対象にした、各自の信仰について考える研修旅行

²⁵ 「相関関係：一方が増加するとき、他方が増加もしくは減少する傾向が認められ